

# 肝臓病教室への 看護師としての関わり

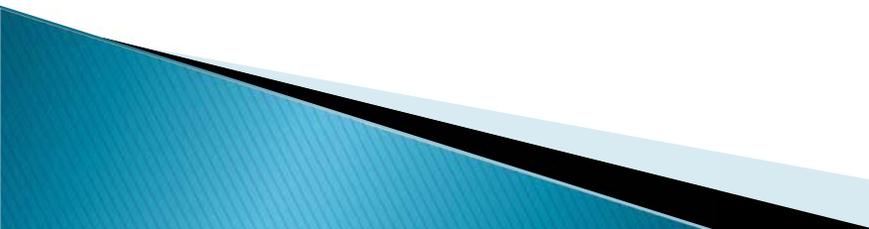
国立病院機構長崎医療センター

看護師 寺尾 敦

# 長崎医療センターの概要

- ▶ 肝疾患診療拠点病院
- ▶ 国立病院機構肝疾患ネットワークの基幹病院
- ▶ 病床数643床 うち40床が肝疾患センター
- ▶ 肝疾患センターにはラパ室とエコー室があり、病棟で腹腔鏡検査・肝生検・RFA・PEIT等の検査・治療が実施できる

# 本日の内容

1. 肝臓病教室の目的
  2. 肝臓病教室の実際
  3. 今後の肝臓病教室
  4. 看護師の関わり
- 

# 集団教育の目的・意義

- ▶ 慢性疾患とはおそらく患者さんがその一生を抱えて生活する疾患である
- ▶ 患者自身が疾患を十分に理解し、共存していくことが必要となる
- ▶ そのため、医療従事者からの知識や情報の提供は重要なものである
- ▶ 全ての患者一人ひとりに十分な時間をとって指導を行うことは難しい
- ▶ 基礎的な知識や情報を効率的に伝達するために、集団教育がおこなわれる

# 肝臓病教室の目的

## 肝疾患患者のQOLを高める

- ▶ 日頃の疑問や不安を解決する
- ▶ 疾患に対する理解・関心を深める
- ▶ 入院中だけでなく、日常生活でも治療が行われていることを理解し、疾患の管理ができる



- ▶ 医療者側にも患者の疑問や不安、理解度を把握できる大きなメリットがある

# 肝疾患における患者指導の注意点

- ▶ 肝疾患は病期によって治療法が異なり、進行に伴い発癌の可能性が高まる
- ▶ 対象者によって必要とする知識や情報が異なってくる
- ▶ そこを間違えると、現在行われている治療への不満や医療不信にもつながりかねない
- ▶ その患者に必要な情報・知識は何なのか、という視点を大切にしてプログラムを決定しなければならない

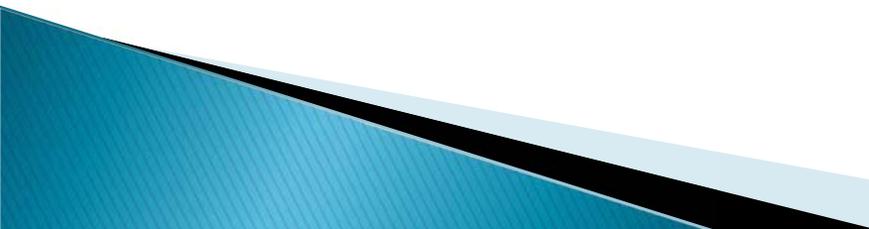
# 肝臓病教室のありかた

- ▶ 全国164施設で肝臓病教室が実施されている。
- ▶ 講義形式やグループワーク形式など、様々な方法がある
- ▶ 各施設の男女比や年齢層、疾患の比率などによって実施内容は異なる



- ▶ それぞれの施設の特性や目的にあった独自の形式を考え、実施することが必要

# 本日の内容

1. 肝臓病教室の目的
  2. 肝臓病教室の実際
  3. 今後の肝臓病教室
  4. 看護師の関わり
- 

# 当院での肝臓病教室について

- ▶ 開催日：毎月第3木曜日15時
- ▶ 場所：病棟の食堂
- ▶ 対象者：入院・外来患者とその家族
- ▶ 医師・看護師・薬剤師・栄養士を中心とした講義形式
- ▶ 全行程終了後に、質疑応答の時間を設ける
- ▶ 参加者にはアンケートに答えていただき、終了時に回収

開催日を固定することで予定を組みやすく

入院患者、家族も参加しやすい場所で

患者の疑問や希望を聞きだし、今後のプログラム作成に活かす



# 肝臓病教室の実際【医師】

## 肝炎とは？

- 肝細胞が炎症により壊れている状態

### 炎症って？

肝臓を山に例えると山火事の程度を表す。



火事の

AST  
ALT

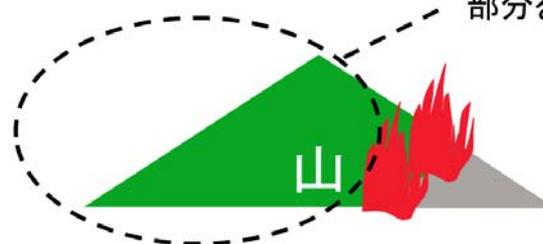
図で表すことで  
わかりやすく！

## 肝硬変

肝硬変が進むと予備能力が低下していきます。

### 予備能力とは？

肝臓を山に例えると山火事でまだ火事になっていない部分を表します。

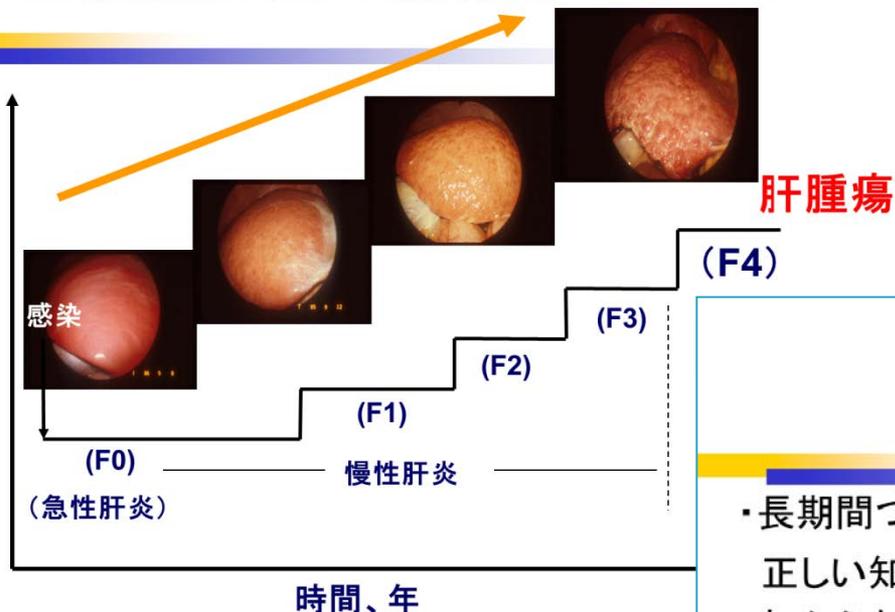


検査では  
アルブミン (Alb)  
プロトロンビン時間  
(PT)

黄疸の指数であるビリルビンも上昇します

# 肝臓病教室の実際【医師】

## C型慢性肝炎の線維化ステージ



患者さんへの  
配慮も忘れずに！

## 肝臓病治療の心構え

- ・長期間つきあう病気ですので病気や治療についての正しい知識を持ちましょう。
- ・わからないことは遠慮せずに主治医に尋ねてください。  
例：外来の時にいくつか質問事項をメモなどで準備しておく。
- ・肝臓病だけでなく他の病気のチェックもお願いします  
(年に1度は検診を受診してください)。
- ・肝臓病と付き合いながらも、日々豊かな喜びのある生活をお過ごしください。

# 肝臓病教室の実際【栄養士】

野菜・きのこ・海藻類

低エネルギーな食材をたっぷりと

加熱するとかさが減って食べやすくなります。

1食分/約120g (例)



く生のものな

ちょっとだけ「サプリメント」のお話し



健康食品は健康になる食品ではありません

- 医薬品との併用は思わぬ健康障害がみられることがあります。
- 複数のサプリメントの併用は特定の成分が多くなり危険です。
- 服用に関しては自己責任となります。



1日3食きちんと食事を摂取し、多く（約20～30種類）の食品を摂取していれば、ほとんどの場合に補助食品は必要ありません。

保健機能食品

栄養機能食品

食品  
健康食品  
など

# 肝臓病教室の実際【薬剤師】

ジェネリック医薬品はいつ発売されるの？

**新薬の特許が満了した後に発売**

新薬は、最初に開発・発売されるお薬で、開発メーカーは特許期間中、独占的に製造・販売することができます。

その特許期間が満了した後に、厚生労働省の承認のもとに他の製薬会社から同じ有効成分を使った薬が製造・販売される。それが、ジェネリック医薬品です。

新薬の特許期間とジェネリック医薬品



お薬にも特許があったのか。



## 下剤の種類

薬の効果	便を柔らかくする	腸を刺激して便を出す			
使い方	便の硬さで調節	便が出ないとき、寝る前に			排便の前に
薬の名前	酸化マグネシウム マグミット錠	ピムロ アローゼン	センゾド* プルゼニド	ピコスルファート ナトリウム 内用液	テルデランス 坐剤

# 肝臓病教室の実際【看護師】

病気を悪化させないために・・・

## ■ 安静と運動

- 肝臓病では安静がのぞましいの？

## ■ 一般的な日常生活の注意

- 生活の中で注意することは？

## ■ 肝臓とアルコール

- 基本は禁酒？

実例を挙げて  
わかりやすく

健康な人のアルコール  
処理能力

- ビール中びん1本に約3時間
- 3本飲めば9時間
- 5本飲めば15時間

肝臓はフル回転



負担大



# 肝臓病教室の実際【看護師】

## B型肝炎の感染防止

### 〈感染経路〉

感染者の血液の他、性行為から感染する。



- 血液に触れなければいけないときにはゴム手袋をする。
- 血液が付いたら手を石鹸を使って綺麗に洗い流す。
- 歯ブラシ、カミソリの共用はしない。
- パートナーにB型肝炎ワクチンの接種を受けてもらう。



検査、ワクチン  
疑問点  
気軽に相談

資料を見た家族も  
指導できるように

## 家族の方へのお願い



- 治療を続けるうえで、ご家族のご理解と暖かい励ましが一番心強い支えとなります。
- 患者様は外見上は元気そうに見えても、心身ともかなりの負担がかかっている事をご理解いただきたいと思います。
- 患者さん自身も治療中はあまり無理をせず、できる範囲で周囲の協力を得るようにしましょう。



# 肝臓病教室のマンネリ化

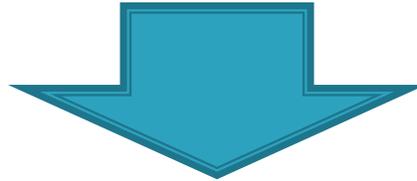
- ▶ 当院では平成16年度から肝臓病教室を開催していたが、内容の大きな改定はなく同じ内容の繰り返しになっていた
- ▶ 糖尿病患者への指導等とことなり、教育が直接疾患の管理や治療に繋がりにくいため、医療者側のモチベーション低下もみられた



- ▶ 患者と看護師双方の満足度アップのために肝臓病教室の改善を目指した

# 患者が求める知識・情報について知る

- ▶ 入院患者を対象に、求める知識や情報についてアンケート調査を実施



- ▶ 治療法は理解できていても、その適応については理解が不十分な方もおり、不満の声が聞かれた
- ▶ 治療法や症状だけでなく、治療費用や助成制度への関心も高いことがわかった
- ▶ 感染に対する知識が不十分でQOLを低下させている事例もあった

# 得た情報から年間スケジュールを再考

- ▶ 年間スケジュールを作成し、入院時に配布することで退院後も参加したいテーマに参加することが出来る
- ▶ これまでは、慢性肝炎・肝硬変・肝がんという3つのテーマを繰り返し実施していたが、メタボリックシンドロームや外科治療、医療費助成制度などの項目を追加した
- ▶ 年数回特別講演を依頼し、最新治療や新しい情報を得ることができる場を設けた

**患者が知りたい情報を提供する場を整えることでより効果的な指導ができる**

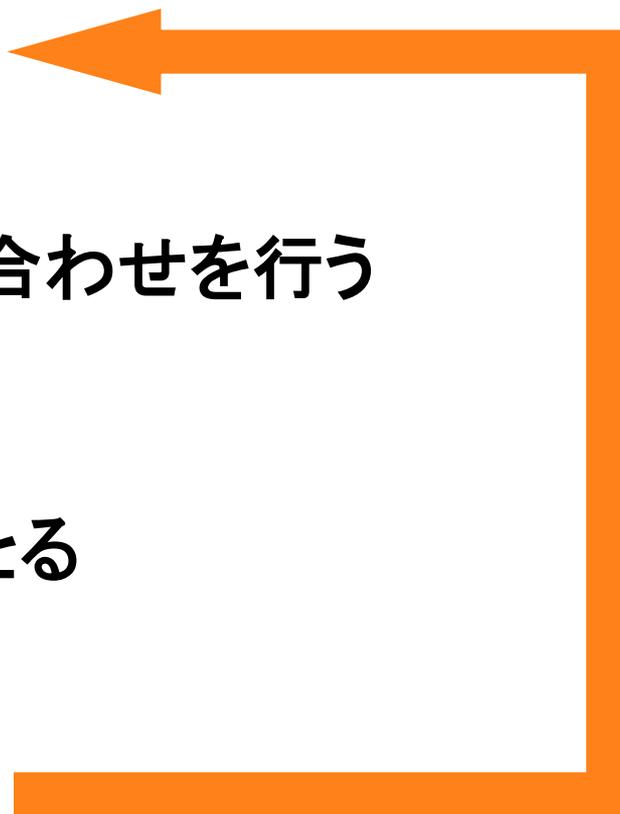
# 肝臓病教室の実施まで

1か月前にポスター貼り出す

教室の前日までに最終打ち合わせを行う  
肝臓病教室を実施する

終了後、事後アンケートをとる

アンケート結果の評価・  
次回教室打ち合わせ





# 平成24年度肝臓病教室予定表



開催月	教室の内容
平成24年 4月19日	慢性肝炎と治療について
平成24年 5月24日	特別講演 八橋 弘 先生
平成24年 6月21日	肝臓病とメタボリックシンドロームについて
平成24年 7月26日	特別講演 石橋大海 先生
平成24年 8月16日	肝硬変と合併症について
平成24年 9月20日	慢性肝炎と治療について
平成24年10月25日	肝臓病と日常生活について
平成24年11月15日	肝臓病と外科治療について
平成24年12月20日	特別講演 藤野達也 先生
平成25年 1月17日	肝臓病とメタボリックシンドロームについて
平成25年 2月21日	特別講演 山崎一美 先生
平成25年 3月21日	肝硬変と合併症について



# 患者の意見から追加された内容



## 平成22年度からの変更点

1. 自己負担限度額を引き下げました。  
これまで、1、3、5万円だった自己負担限度額が、原則1万円（上位所得世帯は2万円）となります。
2. 助成対象医療に核酸アナログ製剤を追加しました。  
従来のインターフェロン治療に加え、核酸アナログ製剤治療も助成の対象となります。
3. 2回目のインターフェロン治療助成を開始しました。  
インターフェロン治療において、医学的に効果が高いと認めら

## 身体障害者手帳

一定以上の永続する障害を有する人に対し、都道府県知事から交付されるもので、身体障害に関するさまざまな福祉サービスを受ける際に手帳が必要。

### <交付対象者>

視覚・聴覚・平衡・音声・言語・咀嚼  
肢体、心臓、じん臓、呼吸器、肝臓、  
膀胱、直腸、小腸、免疫、**肝臓**

※障害の程度により、1級(重度)～6級に分類。  
**肝臓機能障害**は、1級・3級・4級に分類される。



## メタボリック症候群(内臓脂肪症候群)

## ～ 肝臓病教室のアンケートにご協力をお願いします ～

本日は、慢性肝疾患を抱える患者様のQOL(いのちの質)の向上を目指して肝臓病教室を開催しました。今後も肝臓病教室をより良い内容といたためのアンケート調査にご協力をお願いします。(答えにくい質問は空欄のままでも結構です)

### 1. もし支障がなければお答えください(あてはまる項目の欄に○を記入してください)

#### 1) ご自身について

入院治療中	外来治療中	患者家族	その他

#### 2) 性別

女性	男性

#### 3) 年齢

10代歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上

#### 4) あなたの疾患名は



**2年間の満足度点数は91.9%です。**

### 3) とくに印象に残っている内容は何ですか?

### 4) 質疑応答で疑問に思っていたことは解消されましたか?

解消できた	やや解消できた	どちらともいえない	ややできなかった	解消できなかった

### 5) 配布した資料はわかりやすかったですか?

大変わかりやすい	わかりやすい	どちらともいえない	わかりにくい	大変わかりにくい

### 6) スタッフの話す速さはいかがでしたか?

速い	少し速い	ちょうどよい	やや遅い	遅い

### 7) 講義の時間はいかがでしたか?

長い	やや長い	ちょうどよい	やや短い	短い

### 3. 今後どのような内容あるいは改善を期待されますか?

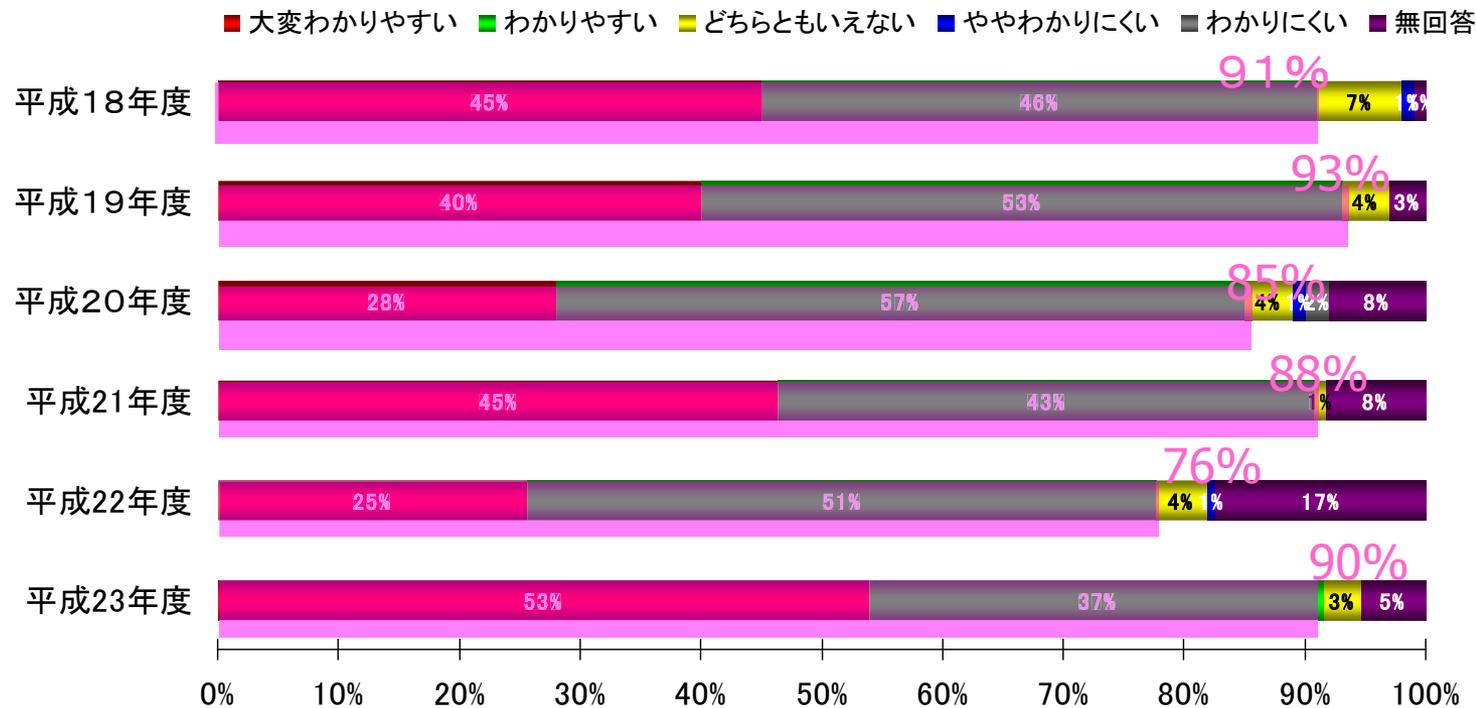
### 4. 今回の肝臓病教室に参加して、あなたの満足度は100%満点のなかで何点ですか?

(                      点 ) ご協力ありがとうございました。肝臓病教室スタッフ一同



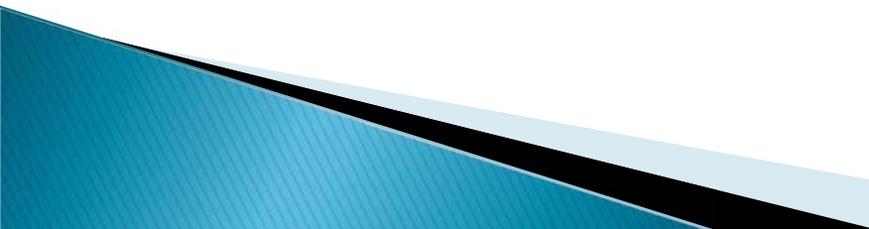
# アンケート結果

## 教室の講義内容のわかりやすさ



- 各年において「わかりやすさ」に大きな変化はない
- 毎年「わかりやすさ」が全体の7割以上を超えている

# 本日の内容

1. 肝臓病教室の目的
  2. 肝臓病教室の実際
  3. 今後の肝臓病教室
  4. 看護師の関わり
- 

# 状況の変化

- ▶ 抗ウイルス療法の治療効果の改善

HCVの駆除率の向上（今後3-4年の内に8-9割）

HBVの制御の向上

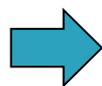


肝発癌率の低下

- ▶ ウイルス肝炎治療助成の整備

# 肝臓病教室の新たな役割

- ▶ 抗ウイルス療法の治療効果の改善
- ▶ ウイルス肝炎治療助成の整備



肝炎は治せる時代へ



啓発活動の必要性 ↑



受身の診療から

能動的な診療へ



市民公開講座あるいは  
肝臓病教室による情報提供

# 肝臓病教室の新たな役割

- ▶ 現在の治療で治癒が見込まれる患者の掘り起しが必要になってくる

例：症状がなくドロップアウトした患者

過去のIFN治療が辛く効果がなかったため再治療に踏み切れない患者

検診で異常を指摘されているが、仕事が忙しく受診出来ていない潜在患者

# 実際の取り組み

- ▶ 年1回市民公開講座を行う  
市政だより等にも開催情報を掲示し、市民に開放した肝臓病教室を実施
- ▶ 疾患ごとの最新治療について肝臓病教室を行い、対象者には連絡を行う

これまでの疾患の管理や観察に関する講義だけでなく、予防的な視点で新規患者を掘り起こしていくことが重要

# 本日の内容

1. 肝臓病教室の目的
  2. 肝臓病教室の実際
  3. 今後の肝臓病教室
  4. 看護師の関わり
- 

# 肝臓病教室における看護師の役割

- ▶ 日常生活に役立つ適切な知識の提供
- ▶ 患者の不安を軽減するための適切な情報提供
- ▶ 患者の治療意欲向上、治療法への理解を深める
- ▶ 日常の看護で聞かれる患者の疑問や不安を、プログラムに反映させる
- ▶ 実施内容の理解度の把握、それに伴う修正すべき点の把握
- ▶ 医療スタッフ間の調整

# なぜ看護師がコーディネーションを行わなければならないのか？

- ▶ 患者の生活や治療に対する想いを最も把握しているのは看護師
- ▶ 日々の看護の中から患者の疾患に対する理解度や不足点、誤解などを把握している
- ▶ 治療・服薬・栄養の分野にも関係しており、各分野に指導内容を依頼できる

**システムの中で看護師が中核となる！**

# おわりに

- ▶ 効果的な集団教育で基礎知識が定着することにより、日常の看護の中での個人指導や退院指導の効果も高まることが期待されます
- ▶ 担当者だけで運営するのではなく、他のスタッフにも活動状況を伝達し、ともに発展させていくことが重要です
- ▶ 看護師が中心となり、患者指導の基盤として肝臓病教室を発展させていきましょう